

目次

第一節 東亞ノ情勢

第二節 歐洲ノ情勢

第三節 「ソ」ノ對日動向

第四節 世界政局ノ動向

第五節 綜合判斷

附錄

其ノ一 各國ノ戰爭指導

其ノ二 各國ノ戰爭遂行能力

204

0622

ニ對スル敵航空基地獲得ノ企圖遂成セラレサル限り本土ト南方地域トノ海上交通ハ概ネ維持シ得ヘシ。

三 太平洋方面

中部太平洋方面ノ敵ハ隨時我艦隊トノ決戦ヲ企圖シツツ「マリアナ」及西部「カロリン」ノ要衝ニ海軍ノ基地ヲ推進シ南太平洋方面ヨリノ進攻ニ策應シ比島及南西諸島方面ヲ攻略シ帝國本土ト南方地域トノ交通遮断ヲ企圖スルナラン、右策攻ハ概ネ十月頃迄ニ實現スルノ

算大アリ。

四 緬甸及印度洋方面

北緬竝ニ「インパール」方面ニ對シテハ雨期中ト雖モ依然壓力ヲ加
重スヘク特ニ印支「ルート」ヲ啓開ニハ全力ヲ集中スヘシ、又太平洋
方面ノ攻勢ト策應シ有力ナル機動部隊ヲ以テスル「アングマン」「ニ
コバル」等ニ對スル上陸作戰ト「スマトラ」油田地帯ニ對スル空襲
ハ其ノ實現性大ナリ。

支那方面

重慶ハ極力抗戰ニ努メ特ニ南支方面航空基地ノ維持ヲ圖リツツ我々
奥地進攻ヲ阻止スルト共ニ印支地上「ルート」ノ啓開作戰ヲ執拗ニ
繼續シ爾後戦力ノ恢復増強ニ伴ヒ反攻ヲ實施スヘシ。

0624

第一節 東亞ノ情勢

敵ハ帝國ニ對シ短期終戦ヲ迫送トシ各方面相聲應シテツ組織的總攻ヲ
ヲ履行スヘク、特ニ本土空襲ト本土、南方諸域トノ分斷ヲ目的トシ太
平洋及大陸方面ヨリスル攻勢作戦ニ依リ戰局ノ急速ナル進展ヲ企圖ス
ヘシ、又右戰局ニ伴ヒ本土上陸ノ機ヲ作戦ヲロトアルヘシ。
尙敵ハ其ノ武力攻勢ニ策應シ攻謀略ヲ益々激化シテ我カ戰意ノ喪失ヲ
企圖スルト共ニ次東亞諸國家諸民族ノ對前離間ヲ激化スヘシ。

一、本土空襲

帝國本土ノ生産設備、交通施設及主要都市ノ徹底破壊ヲ以テ我カ戰

意ノ喪失、国力ノ低下、國民生活ノ混亂ヲ企圖シ併テ本土上陸作
戰ノ機ヲ作爲セントスル敵ノ空襲企圖ハ支那及太平洋基地ノ整備ト
機動部隊ノ活動トニ依リ繼テ八月以降逐次連續執拗且大規模ニ實施
セラレ其ノ空襲被害ノ範圍戰事遂行力ニ及ボス影響ハ輕視ヲ許サザ
ルモノアルヘシ。

ニ 海上交通破壊

今後敵ノ我カ海上交通破壊作戰ハ在支航線部隊ノ活動ト相俟ツテ附
西諸島比島方面ニ對スル潜水艦ノ集結使用、機動部隊ノ進進行動等
ニ依リ益々活潑化シ船舶ノ被害ハ増加スヘキニ比島及南西諸島方面

又米、支空軍ノ増勢ハ依然續續スヘク本土及鮮滿北支等ノ要城ニ對
スル空襲竝ニ海上交通ノ破壞企圖ハ愈々増大スヘシ。
尙東「ソ」及外蒙ヲ通スル接將「ルート」ノ啓開ニ關シテハ「ソ」
ノ今後ノ動向トモ關聯シ警戒ヲ要スヘシ。

六 大東亞諸邦ノ動向

大東亞諸邦ハ滿洲ヲ除キ現情勢ニ於テ既ニ其ノ對日協力的態度消極
化ノ兆アリテ今後東亞竝ニ歐洲ニ於ケル樞軸側戰局ノ推移ト敵側攻
謀略ノ激化ト相俟ツテ政府及民衆ノ動搖治安ノ惡化等ハ漸次増大ス
ヘシ、就中文那ニ於ケル我カ占據地域民衆ノ對日非協力化、比島民

衆ノ離日敵性化、泰領内ノ動搖等ヲ逐次招來スルノ虞大ナリ。

印度假政府ノ對日動向ニハ變化アカルヘキモ印度ニ於ケル英印相剋

ノ度ハ戦局ノ推移ニ應シ上下スヘシ。

0628

第二節 歐洲ノ情勢

歐洲戰局ハ米英軍ノ北佛上陸及「ソ」軍ノ夏季攻勢開始ニ伴ヒ漸ク本格的決戦段階ニ突入シ其ノ大勢ハ一般ニ獨側ニ不利トナリツツアリテ今後獨側ニシテ政戦局ノ轉機ヲ有利ニ把握セサル限り其ノ戰爭指導ハ愈々困難ノ度ヲ加フルニ至ルヘシ。

一、獨「ソ」戦線

獨「ソ」戦線ニ於テハ「ソ」ハ今後主トシテ政略的見地ニ基キ自主的作戰ヲ指導スル算大ナルモ本年後期ニ於テハ失地ノ大部ヲ恢復スルノミナラス更ニ西部波蘭並ニ東「プロシヤ」及洪牙利ノ一部ニ侵

入スルト共ニ羅馬尼及芬蘭ノ大部ヲモ掌握スルノ事態ヲ見ルコトナ
シトセサルヘシ。

二 西歐第二戦線

西歐第二戦線方面ノ作戰ノ成否ハ獨ノ運命ニ最モ重大ナル影響ヲ及
ホスヘク獨ニシテ今後好機ニ投シタル反撃ヲ實施スルカ或ハ米英軍
ノ補給ヲ充分ニ遮斷シ得ル場合ニ於テハ戰勢ノ挽回可能ナルヘキモ
然ラサル場合ニ於テハ米英戦線ハ逐次内陸ニ擴大スルニ至ルヘシ。

三 獨ノ傘下諸邦竝ニ中立國ノ動向

今後ニ於ケル獨ノ軍事的情勢ハ樂觀ヲ許ササルモノアリ、特ニ第二

戦線方面ニ於テ断乎タル決勝的攻勢ヲ採リ作戦ニ成功ヲ收メサル
リ東部戦線ニ於ケル相次ク後退ト相俟ツテ獨ノ傘下諸邦竝ニ由立國
等ハ漸次反樞軸側ノ策謀ニ屈服スルノ事態ヲ見ルコト無シトセサル

ヘシ。

第三節 「ソ」ノ對日功向

東亞及以洲ノ情勢機軸則ニ不利ニ進展スル場合「ソ」カ依然從來ノ如キ對日中立態度ヲ堅持スヘキヤ否ヤハ疑問トスル所アルモ特別ノ事態發生セサル限り自ラホメテ對日參戰ハ勿論對米軍事基地供與ノ舉ニ出ツルコト無カルヘシ。

第四節 世界政局ノ動向

交戦各國ハ死闘ヲ續ケツツアルモ今ヤ内在スル窮狀漸ク表面ニ露呈セ
ントシ茲ニ彼我戰勢ノ均衡破綻及豫想スヘカラサル異變等ヲ生センカ
直チニ政局轉機ノ動因ヲ包藏シアルノ狀顯著ナリ。

從テ今後ノ狀勢推移ニ依リテハ歐洲ニ於テ獨「ソ」又ハ獨英米和平間
題ノ發生及中立諸國ノ背反又ハ獨傘下諸邦ノ脱落ヲ見ルコト無シトセ
サルヘク嚴ニ警戒ヲ要スヘシ。

又重慶ハ戰局ノ推移米、英、「ソ」ノ動向及日本ノ態度如何ニ依リテ
ハ將來政局轉換ヲ考慮スルノ可能性無シトセス。

第五節 綜合判斷

今ヤ敵ハ戦争ノ主動性ヲ把握シアルノ現状ニ乘レ全力ヲ傾倒シテ政戰
兩略ニ亘ル眞面目ナル決戰攻勢ヲ續行強化セントシ今夏秋ノ候ヨリ戰
政局ノ推移ハ愈々重大化スヘノ、之ニ對シ帝國ハ歐洲情勢ノ推移如何
ニ拘ラズ決戰的努力ヲ傾倒シテ敵ヲ破挫シ政略的雄策ト相俟マテ飽ク
迄ニ戰爭完遂ニ邁進セサルヘキラス。

附 録

其ノ一 各國ノ戦争指導

米 國

213

米國ノ戦争目的ハ自國ヲ中心トスル世界制覇ヲ期シ日獨、特ニ日ノ完全屈伏ニ在リ、而シテ米ハ成ル可ク速ニ戦勝ヲ決定的ナラシメン

トシテ期シ英國ト協力シ「ソ」及重慶ヲ利用シ以テ日獨ノ打倒ヲ圖ルヘシ、其ノ攻撃兵力ノ重點ハ東亞ニ指向セラルヘク又「ソ」ヲ對日戦ニ導入スルニ努ムヘシ。

英 國

0635

英國ノ戰爭目的ハ概ネ戰前ニ於ケル勢力ヲ維持スル爲日獨、特ニ獨
ノ彈壓ニ在リ。

而シテ英ハ米トノ提携ヲ愈々緊密ニシテ其ツ重點ヲ獨ニ指向シ「ソ」
ヲ利用シテ先ツ獨ノ彈壓ヲ圖リ他方米ト協力シテ東亞戰線ニ於ケル
攻勢ヲ加重シ戰後ニ於ケル東亞處理ニ活動ノ地歩ヲ確保セントスル
ナラン、其ノ間英帝國ノ結束及近東、阿佛利加ニ於ケル從來ノ地位ノ
確保ニ努ムヘシ。

英帝國保全ノ見地ヨリ米「ソ」ノ勢力歐洲ニ擴大セザランコトヲ冀
求スルト戰禍ノ大ナルトニ鑑ミ國民ニ終戰焦慮ノ氣運ナントセス又

0636

之ヲ基調トシテ歐洲處理問題ヲ繞ル英米「ソ」ニ相剋ノ徵ナキニア
ラサルモ猶ノ健在スル限り早急ニ米「ソ」トノ提携ニ破綻ヲ生スル
コト無カルヘシ。

三 重 慶

重慶ノ抗戰建國ノ目的ハ外國勢力ヲ排除シ其ノ領土及主權ノ完整ヲ
圖ルニ在リ、而シテ帝國ニ對シテハ主トシテ米英戰力ニ依ル日本ノ
屈伏ヲ冀求シ所謂失地回復ヲ期シツラ自ラハ概ネ防勢ヲ持シテ戰力
ノ消耗ヲ回避シ此ノ間爲シ得ル限り自力更生ノ策ヲ講シテ戰後ニ於
ケル自主的地位ノ確立ヲ圖ルヘシ。

日本ノ屈伏ヲ冀求スルコト前述ノ如シト雖モ其ノ完全屈服ハ懸テ米
英ノ壓迫ニ依ル苦難ヲ自國ニ招ク所以ナルヲ慮フモノナシトセス。

四 「ソ」聯

「ソ」聯ハ依然世界赤化政策ノ遂行ヲ期シアリ、現下ニ於ケル戰争
目的ハ當初獨ノ脅威ヲ芟除シ獨「ソ」開戰前ノ領土ヲ回復スルニ在
リシモ其ノ戰勢有利ニ進展スルニ從ヒ右領土回復ニ止マラス「スラ
フ」民族ノ統一「バルカン」、西亞方面延テハ地中海方面ニ對スル
勢力ノ伸長ヲ企圖スヘシ。

之カ爲「ソ」ハ自主的ニ世界戰争ニ對處シ極力米英ヲ利用シツツ先

0635

ツ獨ノ屈伏ニ專念スルト共ニ戰後處理ニ對スル發言權ヲ確保スル爲
政謀略ヲ活潑ニスヘシ。

「ソ」ハ帝國力對米英戰ニ健闘シアル限りニ於テハ當分東亞ニ靜謐
保持ヲ企圖スヘシ。

五 獨 國

獨ノ戰爭目的ハ「ソ」聯ノ脅威ヲ芟除スルト共ニ英國ノ舊支配勢力
ヲ打破シ大獨逸民族國家ヲ組織シ其ノ生存ノ爲ノ歐洲廣域生活圏ヲ
建設スルニ在リ。

而シテ獨ハ米英ノ進攻、特ニ第二戰線ヲ擊碎スルト共ニ交通破壞戰

位ニ謝英空襲ヲ強化シ其ノ戰意喪失ニ努ムヘシ。

0640

附 録

其ノニ 各國ノ戦争遂行能力

一 米 國

(一) 國民ノ團結力ハ依然鞏固ニシテ其ノ物的優越感ニモ鑑ミ繼續戰意
志ハ當分動搖セサルヘシ、然レトモ其ノ士氣ハ主トシテ戰勢ノ振
否ニ依リ級數的ニ増減スヘシ。

216

戰局豫期ノ如ク進展セサル場合ニアリテハ國內事情モアリ戦争遂
行上機微ナル問題ヲ生スルコトナシトセス。

人的資源ハ漸次困難ヲ感シツツアリ。

0641

(二) 「ル」ノ地位ハ鞏固ニシテ其ノ政治力ハ戰勢ノ有利ナル限り動搖セサルヘシ。

大統領改選ノ結果如何ニ依リ繼戰意志ニ影響スルコトナカルヘシ。

(三) 工業生産ハ概ネ昭和十八年末頃ノ水準ヲ維持シアルモ其ノ生産力ハ尙彈力性ヲ保有ス。

食糧ノ國內自給ハ充分ナルモ與國ニ對スル補給ハ中南米ノ利用ニ俟タサルヘカラス。

(四) 地上兵力一二六師團ヲ基幹トスル現陸軍擴張ハ本年中期末ニ一應概成シ、海軍擴張ハ尙續行中ニシテ本年末高速航空母艦約三五隻ノ

保有ヲ期シアルヘシ、又同時期ニ土陸用舟艇ノ建造量ハ約二四〇
万屯（約八万隻）ニ達シ、航空機ハ第一線機約一万機（艦戰機一
九〇〇機ヲ含ム）ヲ對日作戰地域ニ展開シ得ヘシ。

三 英 國

(一) 國民ノ團結力ハ尙鞏固ニシテ繼戰意志ハ動搖シアラス。

217

本國ノ人的資源ハ利用ノ最大限度ニ達シアリ。

(二) 「テ」ノ地位ハ鞏固ニシテ其ノ政治力ハ動搖シアラス。

(三) 本國ノ生産力ハ上昇ノ餘地ナキモ米國ノ援助ニ依リ現状維持概

ネ可能ナルヘシ。

0643

食糧ハ海外依存性極メテ大ナルモ其ノ需給ニ窮迫シアラス。

(四) 陸、海、空軍ハ米國ノ援助ト自治領、屬領等ノ利用トニ依リ現在程度ノ維持可能ナルヘシ。

三 重 慶

(一) 繼戰意志ハ相當ニ鞏固ナリ

人的資源豊富ナリ。

(二) 蔣ノ地位ハ尙鞏固ニシテ其ノ政治力ヲ保有スヘシ。

(三) 輕兵器及食糧ノ自給可能ナリ。

(四) 軍隊ハ現在裝備劣等ナルモ米國ノ援助ニ依リ其ノ裝備ハ逐次向

0644

上スヘシ。

在支米空軍ハ漸次増強シツテアルヲ以テ之カ活動ハ嚴ニ警戒ヲ要ス。

四 「ソ」聯

(一) 國民性ノ粘着方ト「ス」ノ指導方トニ依リ特ニ戰局ノ好轉ト相俟テ國民ノ繼戰意志ハ尙鞏固ナリ。

人的資源ハ概ニ限度ニ達シテアリ。

(二) 「ス」ノ地位ハ極メテ鞏固ニシテ其ノ政治力ハ動搖シテラス。

(三) 生産力ハ今年末基礎工業ニ於テハ概ニ獨「ソ」開戦前ノ水準ニ

回復スヘシ、又飛行機並ニ戰車ノ生産量ハ既ニ戰前ノ生産量ニ匹敵シアルモ爾後急速ナル上昇ハ期待シ得サルヘシ。

尙「ソ」ノ戰争遂行力ハ米英ノ援助物資ニ依存スルニト大ナリ。食糧ハ相當窮乏シアルモ未タ國內動搖ヲ來ス程度ニ至ラス。

(四) 本年八月以降ノ損耗ヲ約七〇万ト推定セハ本年末ニ於テ現有兵力ハ約一〇〇〇万ヲ保持セ尙約二〇〇万ノ動員餘力ヲ有スヘシ。

五 獨 國

(一) 國民生活ハ相當逼迫シ舊時代軍人等ノ謀反事件ノ發生ヲ見ル等國民ノ團結必スシモ鞏固ナラサルノ憾アルモ前大戰ノ苦辛經驗ニ

0646

モ鐵ミ尙相當ノ戰爭意思ヲ把握シアリ。

人的資源ハ限度ニ達セリ。

(二) 「ヒ」ノ政治力ハ當分動搖セサルヘシ。

(三) 生産力ハ戰勢ノ不利特ニ占領地ノ縮少、中立國ノ離背、空襲ノ増大、勞働力ノ不足等ニ依リ逐次低下スルノ已ムヲ得サル狀況ニ在ルモ未タ戰爭遂行ニ大ナル支障ヲ及ボス程度ニ至ラス。

食糧ハ勢力圏内ノ需要ヲ概ネ充足シ得ヘシ。

(四) 本年八月以降ノ損耗ヲ約七〇万以内ニ止ムルニ非レハ本年末ニ於テ現有兵力(約九七〇万)ノ保持ハ困難ナルヘシ。